

研究テーマ 電気生理学的手法による線維筋痛症解析と治療薬探索

所属 薬学部

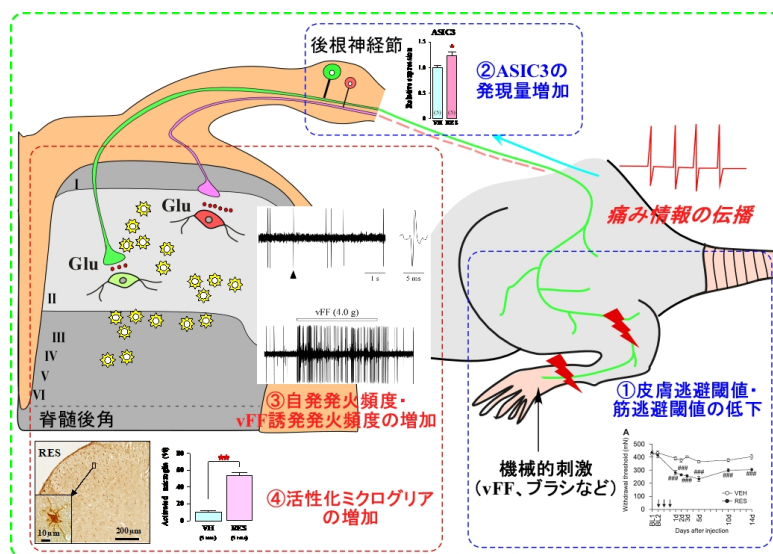
助教 歌 大介

研究の背景及び目的

線維筋痛症に代表される慢性疼痛は難治性でその詳細な伝達機構や制御機構は未だ不明であり、有効な鎮痛薬や治療法が確立されていないため患者の生活の質（QOL）の著しい低下を招き社会問題になっている。本研究では、線維筋痛症モデルラットを用い電気生理学的手法により、線維筋痛症における脊髄痛覚シナプス伝達回路の解析及び新規治療薬のターゲット探索を行う。



■ おもな研究内容



シナプスレベルでより詳細な解析を行いメカニズム解明を目指す

期待される効果・応用分野

本研究で用いる in vivo パッチクランプ法は、生理的な刺激によって誘起されるシナプス応答が解析出来るため、行動解析結果と直接比較する事が出来る。その結果、病態時におけるシナプスレベルの変化を詳細に捉えることが可能である。更に、臨床同様の薬物投与方法を用い解析出来るため新規治療薬の探索にも有効である。本手法を用いた線維筋痛症におけるシナプスレベルの解析及び新規治療薬の探索を行う研究は世界初の試みである。

■ 共同研究・特許など

申請者はこれまで、電気生理学的手法により疼痛・搔痒研究を行いその成果を学会・論文として報告し、日本疼痛学会優秀発表賞、Pain research 最優秀論文賞、The 3rd Asian Pain Symposium Best Poster Award などを受賞した。その他にも富山大学、生理学研究所、岡山大学、北里大学、関西大学をはじめ様々な研究機関及び製薬会社と共同研究を行っている。

研究分野	疼痛学
キーワード	疼痛の神経機構

研究室URL :